

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0990600017		
法人名	医療法人修和会		
事業所名	塩野室ハウス		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-20 (電話) 0288-26-8770		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成22年1月6日

## 【情報提供票より】(平成21年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人(兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算5.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代—2,000円</li> <li>・おむつ代—実費</li> <li>・おむつ処理代—実費</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(80,000円)	有りの場合償却の有無	無(修繕費を差し引き、退居時に返還)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	650 円
	夕食	600 円	おやつ	(昼食費に含む) 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2			2 名
要介護3	2 名	要介護4			3 名
要介護5	1 名	要支援2			名
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人修和会 石塚クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは地域で開業している医療法人が開設したホームであり、医療と介護の連携による「サービスの質」「人材の質」「経営の質」の三つの質の向上を図り、高度な専門性による安全と安心をベースに、サービスの提供を行っている。入居者の思いを尊重し、当り前で自然な生活ができ、心安らぐ環境作りに努め、思いやりを大切に、何でも相談が出来、誰でも自由に入出入りできるような雰囲気のホームを目指すために、全職員が一丸となって新しい理念の作成や理念の実践に向けて取り組んでいる。自治会活動を通して、地域の行事に積極的に参加するだけではなく、地域の人々が何を必要としているか、地域の中での福祉拠点としての役割を検証しながら、地域に開かれたホームを目指している。また、入居者の「思い」や「出来る事」を全職員で共有しながら、入居者と職員が共に支え合って暮らしている様子がうかがえるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価及び自己評価の意義を捉えており、前回の評価結果を運営推進会議にて報告を行い、意見や助言から改善に向けた取り組みに役立てる等、常にケアを見直す機会としている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員がミーティング時に意見交換を行い、最終的には管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、塩野室自治会における人・団体関係図を基に、自治会長、消防団部長、市職員、地域包括支援センター職員、家族代表等に参加してもらい、活発な意見交換の場となっている。ホームの現状報告にとどまらず、出席者から意見や要望が出されるなど、双方向的な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に内部や外部機関の苦情受付窓口について表記しており、契約時にはこれらの説明をしている。玄関には苦情・質問受付箱も設置している他、家族からの意見が反映できるよう、運営推進会議後には、入居者と共に昼食をとりながら気軽に要望等を表わせる機会も設けている。入居者の生活の様子や健康状態は、家族の来訪時に職員が報告をしている他、急な変化があった時には、随時電話にて報告もしている。また、ホーム側からも家族に入居者の生活上の相談をすることにより、適切なアドバイスを貰い、入居者の支援に繋げている。預かり金等はパソコンで管理しており、職員二人体制で確認を行ったうえで家族に報告をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域住民の一員として甘酒祭り、敬老会、獅子舞祭り、クリーン大作戦、いきいきサロン、小中学校運動会等の行事に参加している。普段の暮らしの中でも、地域住民がホームに気軽に立ち寄り、おすそ分けをしたりする関係作りが出来ている等、地域活動や地域住民との関わりを積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に全職員でつくりあげた理念を基に、入居者の日々の支援に努めており、理念の実践に向けて段階的に取り組んでいる。今後は、理念をホームの状況等に応じて定期的に見直しを図ることも検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス等の話合いの度に、理念についての話し合いが行なわれ、全職員で理念の共有を図っている。入居者との関わりの中では、常に理念を実践していくことを意識した取り組みが行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域住民の一員として甘酒祭り、敬老会、獅子舞祭り、クリーン大作戦、いきいきサロン、小中学校運動会等の行事に参加している。普段の暮らしの中でも、地域住民がホームに気軽に立ち寄り、おすそ分けをしたりする関係作りが出来ている等、地域活動や地域住民との関わりを積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価及び自己評価の意義を捉えており、前回の評価結果を運営推進会議にて報告を行い、出席者からの意見や助言を改善に向けた取り組みに役立てる等、常にケアを見直す機会としている。今回の自己評価は、職員がミーティング時に意見交換を行い、最終的には管理者がまとめあげた。		

塩野室ハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、塩野室自治会における人・団体関係図を基に、自治会長、消防団部長、市職員、地域包括支援センター職員、家族代表等に参加をもらい、活発な意見交換の場となっている。ホームの現状報告にとどまらず、出席者から意見や要望が出されるなど、双方向的な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市担当職員には常に事業所の実情等を伝えており、積極的に関わる関係作りができています。また、社会福祉協議会事業への参画や、民生委員等とも情報を共有しながら、市との連携に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活の様子や健康状態は、家族の来訪時に職員が報告をしている他、急な変化があった時には、随時電話にて報告もしている。また、ホーム側からも家族に入居者の生活上の相談をすることにより、適切なアドバイスを貰い、入居者の支援に繋げている。預かり金等はパソコンで管理しており、職員二人体制で確認を行ったうえで家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部や外部機関の苦情受付窓口について表記しており、契約時にはこれらの説明をしている。玄関には苦情・質問受付箱も設置している他、家族からの意見が反映できるよう、運営推進会議後には、入居者と共に昼食をとりながら気軽に要望等を表わせる機会も設けている。	○	運営推進会議後の親睦会にて家族の意見等が聴ける機会はあるが、ホーム側からは「もっと家族が意見や不満を言いやすい関係を築きたい」との思いがある事から、家族会の発足の検討など、更に要望等を表しやすい環境づくりに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は離職者が出ないように、普段から職員の想いを傾聴するよう気を配っている。異動があった時は、入居者との馴染みの関係を大切にしながら率直に伝えている。職員間では、入居者の詳細なアセスメントを事前に申し送りを行い、入居者に影響が出ないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は福祉人材研修センターで開催されたOJT研修を受けたことにより、職員育成の重要性を再認識し、職員各自の立場や経験年数に応じて、「働きながらの学び」の機会を支援している。研修の報告は、全職員が共有できるようミーティングで報告している。	○	OJTの意義を全職員が理解しており、今後プロジェクトチームを立ち上げての取り組みを検討していることから、全ての職員が更に質を向上させていけるような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とはネットワークが構築されており、常に相談や連携ももてる関係作りが確保されている。また、法人の理事長が医師であることから、医師同士の交流により、他同業者の現状や問題点などをタイムリーに聞くことができる等、サービスの質の向上に繋げている。	○	市内の同業者間での連絡会議等の開催により、事例検討や相互訪問を行い、各事業所間で協働しながら質の向上を目指せることから、当事業所が中心となって市担当職員に連絡会議等の開催に向けた働きかけを行っていくことを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居に至るまでの間に、本人や家族にホームへ見学等に来てもらい、要望や不安を受け止めながら関係を築きあげ、ホームの雰囲気早く馴染めるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は掃除、洗濯、料理等の様々な生活リハビリを通して、入居者が本来持っている個性や能力が発揮出来る様に支援しており、その中で共に過ごし、学び、支え合う雰囲気が作れるように配慮している。入居者と思いを共有し、共感できる関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをアセスメントシートの中から把握し、職員間で情報の共有に努めている。その中から、日々の会話や行動、表情等から希望や意向をくみ取っている他、意向の表出が困難な入居者には、家族からのアドバイスももらいながら、本人の視点に立って意見を出し合い、積極的にアプローチに取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいて、職員から様々な意見やアイデアを出してもらい、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、個別介護計画を作成している。カンファレンスが夜間にまで及ぶことから、家族の参加は難しいが、日頃の関わりの中から家族の思いや意見も参考にして、介護計画に反映させる努力をしている。また、全職員が参加できるよう、勤務のローテーションも考慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、ケアカンファレンス時に日々の様子やケアの実践及び結果を職員間で繰り返し話し合いながら、見直しを行っている。職員の気づき等により、入居者の状態の変化を細かく把握しており、更新時でなくても情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況や要望に応じて、通院や送迎等を柔軟に対応したり、外食が好きな入居者には、希望により個別に対応する等、ニーズに応じた多様な支援を行っている。また、民生委員やボランティアとは活発な交流があり、自治会を通して構築された人的ネットワーク組織の活用等、ホームにおける多機能化に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人のクリニックが協力医療機関であり、入居相談から入居申込みに至る過程において、協力医療機関についての情報提供は行っているが、本人や家族の意向を十分にくみ取り、事業所の都合を優先することなく、適切に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居申込み時に、重度化した場合のホームの考え方や対応方針についての説明を行っている。特に、排泄や入浴が二人介助になった場合は、医療連携体制を十分に整え、支援できるよう職員間で話し合いを持ったり、勉強会などにより検討している。将来的には医療連携体制加算の指定を受けることも視野に入れ、家族の希望にもよるが、看取りを行っていく考えも持っている。	○	本人や家族の意向に対して、事業所が対応しうる最大の支援方法により、全職員でホームの方針についての話し合いや共有することを今後も継続して行くことに期待したい。更に本人と家族の安心と納得を得られるように、重度化に伴う意思確認書等の作成も視野に入れ、状況に応じた説明をその都度行っていくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳と権利の確保ができるように全職員が定期的に確認を行い、誘導の際の声かけなどは目立たずさりげない言葉かけに配慮している。年長者である入居者には敬意を払い、馴れ合いの中で入居者の尊厳を無視した対応にならないよう配慮している。個人記録等の個人情報は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課は特に定めてはおらず、入居者一人ひとりのペースを大切にした対応を心がけている。日々の体調や要望により入居者自身が過ごし方を選べるように柔軟な雰囲気作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、食事の準備や後片付け等を通して入居者個々の力を活かしながら、自分の役割として関わってもらえるよう、声かけや場面作りに努めている。メニューは、カロリーやバランス、塩分や糖分等に考慮しながら、職員が作成しているが、入居者からの評判は高い。入居者の誕生日には、プレゼントを兼ねたリクエスト食の提供も行う等、食事を楽しむことのできる支援に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日3名を目安に、一人30分程度の入浴を行っている。入浴時間は概ね午後2時～午後4時となっているが、入居者一人ひとりに声かけを行い、希望者がいれば意向に沿って入浴できるようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から確認した入居者の生活歴等を参考に、本人の得意分野で一人ひとりの能力が発揮できるように支援している他、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、入居者の興味・関心のあることを引き出す声かけに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物など、少人数での外出の機会を作っており、歩行が困難な入居者についても、気分転換や五感刺激の機会として、外出の支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は門や玄関への施錠は行っていない。カンファレンスにおいても、鍵をかける事等の弊害については話し合いが持たれている。入居者が抱えている、心理的不安や混乱などの要因を取り除くケアについても、職員間で認識を共有している。		

塩野室ハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市消防本部に依頼して、年二回の避難訓練等を行っている。夜間時を想定した訓練も実施している。運営推進会議においても、地元消防団や自治会長に対して緊急時の応援等をお願いしており、「防火教室事業計画」においても地域と協働で取り組む姿勢が見られる。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの健康状態を同法人のクリニックにも相談しながら的確に把握しており、その人にあった量や栄養バランスの確保に努めている。また、業務日誌においても、日々の摂取状況を記録している。居間には麦茶などのサーバーが設置されており、入居者等がいつでも水分補給ができるような配慮がなされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、行事の写真や入居者が作成した趣味の作品等が掲示板に飾られており、一般家庭の様な落ち着いた雰囲気になっている。北側の廊下天井には、採光窓を設置したり、夜間、洗面所の鏡に対話をする入居者の状態を考慮して、カーテンを取り付けたり、居間のテーブルの座席の配置などにも、入居者同士の関係性を配慮するなど、居心地良く暮らせる工夫が随所に見られた。なお、共用空間には不快な音や光などは感じられなかった。	○	洗濯室の入口がオープンになっており、入居者の認知度が変化してきた場合等も想定して、事故の起きない様な工夫をしていくことを期待したい。また、入居者と職員の間で、畳などのスペースを利用してくつろぎたいという思いがあることから、衛生上の問題等も考えられるが、抗菌・防ダニ加工を施した畳等を配置して、「和」の空間を取り入れることにも期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅との違いによる不安やダメージを最小にする為に家族とも相談を行い、入居者が使い慣れた馴染みの物を持参してもらっている。また、身体的な変化を見越して、入居時にはベットを準備してもらうことを家族に説明している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。